

平成 23 年度第 3 回北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 会議録

1 開催日時

平成 24 年 2 月 2 日（木）19:00～20:00

2 開催場所

北九州市役所 3 階 大集会室

3 出席者等

(1) 委員

井手委員、井上委員、今村委員、江口委員、緒方委員、桑原委員、財津委員、座小田委員、下河辺委員、下田委員、白水委員、田中委員、永田委員、長野委員、中野委員、中村委員、野村委員、橋元委員、林委員、日浅委員、古市委員、丸林委員、村上委員、山崎(裕)委員、力久委員、渡邊委員

欠席者 井田委員、伊藤委員、河原委員、白木委員、新川委員、松田委員、山崎(克)委員

(2) 事務局

本村総務部長、阿高地域支援部長、井村介護保険・健康づくり担当部長、倉知計画調整担当課長、大下高齢者支援課長、清田いのちをつなぐネットワーク推進課長、今吉介護保険課長、戸島事業者支援担当課長、大庭健康推進課長、島田健康づくり担当課長、土河障害福祉センター所長他

4 会議内容

(1) 第三次北九州市高齢者支援計画の最終案について

5 会議経過及び発言内容

(1) 第三次北九州市高齢者支援計画の最終案について

委員：介護保険料も上がるので、現場で、苦情がでないよう利用者の理解を得ることが大切と思っている。

委員：今後、在宅サービスの重要性がますます高まってくることを考えると、まだまだ課題が多いと思う。今回の介護報酬改定も、事業所にとっては非常に厳しい状況であり、利用者の方々にサービスが担保できるかというところを危惧している。利用者の負担を考えながら、今後も検討していく必要があるのではないかなと思う。

委員：認知症対策の充実に取り組む姿勢が表れている点はよいと思う。現場では若年性認知症の対策をどうするかという問題があるが、今後の具体的な展開に期待している。地域包括支援センターについては、社会福祉士が配置されているが、社会福祉士会としても、バックアップ体制に力を入れて、質の向上を目指していきたい。

委員：専門的な話が多く、一市民としては理解しづらい面があり、あまり意見が言えなかった。

委員：厳しい財政状況の中で、できる限りのことを盛り込んだ事業計画ができたのではと思っています。高齢者の負担が少しでも抑えられるよう、介護予防をしっかりと推進していただきたい。また、サービスを提供する側も、もっと勉強し、その人にふさわしいサービスを提供する努力をしないとイケない。法の改正により事業者としては大変厳しい現実が待っている。こういったところを市民の皆様にはしっかりとご理解いただけるよう行政の方もバックアップをお願いしたい。

委員：いろいろな事業・サービスが用意されているが、大切なのはサービスを必要としている人が必要なサービスをしっかりと受けられることである。栄養士会でも24年度から訪問による看護支援事業を進めていくこととしており、結果が出るよう頑張っていきたい。

委員：状況等が時々刻々と変わっているなかで、パーフェクトな計画が出来上がることは、まずないと思う。いろいろな意見も伺った上でまとめられた計画であり、これはこれで良いという印象を持っている。パブリックコメントの意見をみて、地域の中で民生委員と福祉協力員、周りの団体・組織・グループ等との連携が十分でないという感じをもった。特に、民生委員と福祉協力員との協力関係が手薄になっているというご指摘を受けている。これを謙虚に受け止めて、今後、それぞれの立場でどう連携していくかを考えなければならぬと感じた。

委員：計画が絵に書いた餅にならないように、どう実行されているかという検証していくことが非常に大切ではないかなと思う。私も一市民として協力したいと思う。質問だが、基金の取り崩し後、どれくらい基金が残るのか。

介護保険課長：介護給付準備基金については、最低限必要な金額を残し、残りの約22億円を取り崩し、今回の保険料の引き下げに活用しよう考えている。介護保険は、3年を1サイクルとする事業であり、お支払いいただいた保険料は、その3年間の中で介護給付費にあてるのが原則であり、剰余が出た場合は基金として積み立てるが、その場合でも、次の期間には、取り崩して活用することが望ましいと考えている。また、今回、全国的に引き上げが予想されたため、国からも基金をできるだけ取り崩してほしいといった考え方が示されたので、それに沿う形で取り崩しを行うこととした。

委員：低負担高福祉は理想だが、高齢化が進んで介護の必要な人が増えていく現状では、今回の保険料は仕方がないと思う。基金の取り崩しで、できる限り保険料の上昇を抑えていただいたことは有難いと思う。しかしながら、今回の介護報酬改定で、サービスを提供する側の経営面は、かなり厳しくなると思っている。老人保健施設だけみても、在宅支援、ショートステイなどによるレスパイト機能などが求められているので、幅広く地域を介護の面から支えていこうと思っている。また、高齢者も介護の必要な人ばかりではないし、介護予防や健康の増進についても計画がなされているので、是非、計画に沿って進めていってほしい。

委員：今回の支援計画はこれまでの行政計画になく社会福祉協議会の立場を十分にご理解いただいた計画になっていると感じており、大変嬉しく思っている。また、多くの分野で社会福祉協議会の活動と関係のある事業が計画されている。民間の立場で地域福祉活動計画を進めていく社会福祉協議会としては、この行政計画と連携して取り組んでいかなければいけないと再認識してい

る。

委員：今後、薬剤師もできる限り自宅に訪問させていただくなど、薬を正しく飲んでいただく活動に今まで以上に努めていかなければいけないと思っている。約500億円の薬が残薬として、飲まないまま捨てられているといわれており、非常に大きな問題なので、市の薬剤師会でも取り上げていきたい。また、薬剤師会で薬の説明会などを行っているが、健康マイレージ事業にも登録をして、お薬の話を聞いたら健康マイレージのポイントがもらえるというような宣伝をしていきたい。

委員：「要介護高齢者の食を支える口腔ケア対策事業」の中で、口腔機能の向上の意義や重要性というのが書かれているが、実際、訪問に行った際に、意思疎通ができない状況では、なかなか治療が進まなかったり、口腔ケアができなかったりという場合が多い。お口の問題点を早期に発見できるようなシステムというものを含めて取り組んでいきたいと思っている。また、認知症に関して、医療と介護の連携に取り組んでいきたい。

委員：今後、労働人口が減っていく中で、元気な高齢者の方が、自分の持っている経験や知識、技能を生かして是非社会貢献をしていただきたいと思っている。また、非常に個人的なことだが、現在、家族の介護をしており、介護のことをいろいろ勉強しているが、もっと若いときから介護について関心をもって、勉強しておくべきだったと感じている。

委員：高齢者としての実感を申し上げると、高齢者が成熟していないというか、大人になっていない現状があるように感じる。年配の方が少しづつ名脇役になっていけるような社会になっていかないと、将来に希望が持てないのではないかと。

委員：パブリックコメントの意見を見ていると、いまだにあれしてほしい、これしてほしいという意見が多い感じを受けたが、他方で、ボランティア関係の意見を見ていると、自分達でいろいろやっていきたいという芽がでてきているのが、非常に心強いと思った。また、今度の計画は、保健福祉局だけでなく、他局との連携がこれまで以上に上げられており評価している。

委員：フレームがしっかりした計画になったのではと感じているし、高齢者分野のいろいろなニーズを取り込んだ内容と思う。ただ、実際に動かすときに、人がどう動いているのか、どう人を育てるのが要になってくると思う。その点の充実をもっと図っていかなければいけない。また、項目間の連携をどうしていくかを今後も議論できればいいと思う。人材養成という点では、介護と医療の連携で、一緒に研修会を充実させようというところに足を踏み込めたことが前進だと思っている。今後、この計画がどう実施されて、どう事業評価をするのかが、大きな課題だと思う。客観的な目で評価していくシステム、体制のあり方が、ますます重要になると思う。

委員：認知症対策については、家族やご本人の視点を取り入れていただいたが、どう実施されていくかは、これからのことだと思っている。それから、介護保険が在宅重視になっているが、事業者も苦しい状況にあるという話も聞いており、実際にサービスを提供する事業者がないという状態にならないかとても心配である。在宅重視が、利用者や家族にとって、苦しくならないような方向に進んでほしい。それから、地域のいろいろな見守りなど、行政に頼らず活動する動きがでてくるだろうと、そうならないといけないと思う。子どもから若い人からすべての人

が、高齢者対策も自分達の問題であるという視点で、北九州市のことを考えていける地域づくりを進めてほしいと思うし、そういう動きがでてきたときは、是非、支援するような施策をどんどんやってほしい。

委員：我々は、北九州市というひとつの地域の中で活動しているが、そこにグローバルな、要するにグローバルの視点が、これから求められる気がする。また、能力をもった人が活躍できるような、シンクタンク機能を高めていっていただきたい。老人大学等でも、内容を高めていく面、多品種少量生産の視点を持たないといけないという印象を受けている。それと、低所得者に対する市独自の施策がだされたことはよかったと思う。

委員：高齢化が進むなか、認知症の人も増えてくると思う。そういった認知症の方と認知症を支える家族が地域社会で安心して暮らせるように、レスパイトケアなどのケアマネジメントをしっかりしていかなければいけないと思うし、そういった方達が、安心して暮らせるような手助けができればいいと思っている。

委員：生涯学習・社会教育・社会体験の視点から見たときに、今回、元気な高齢者、それから介護が必要な方に対しても、総合的な支援体制が網羅されてきたという感じを持った。スポーツなどの身体活動や学習活動を盛んにすることの大事さは証明されているので、この計画が具体的に進むことを期待している。行政だけでなく、市民が自主活動をするためのリーダー養成が大事だと思うが、それに関する事業もあるので、大変よいと感じている。単独でやるというのも大事だが、関係機関・団体が組むということ、組むための企画をするコーディネート役の存在が大事で、そのような企画力のあるリーダー養成に力を入れていただきたいと思う。もう1つは、行政間の連携・ネットワークが大事なような気がする。市民センターや生涯学習センター、高齢者大学校、ボランティアセンター等関連機関のまとめ役が大事な役割を担うと思うのでお願いしたい。どこが実施主体でも、市民にとっては同じで、団体や行政の類似の事業を調整して、一緒にやってパワーをあげる形で取り組んでいくのが大事なような気がする。

委員：後期高齢者が増えて、介護保険料が上がっていくというのは、やむを得ないところもあるが、これ以上、保険料を上げていけないためには、元気な高齢者であり続けることが大切である。元気でいつまでも過ごしていくためには、その人にとっての必要な生活の支援・援助が、要所であることが一番大事だと思う。生活基盤がきちんとあれば、自分で頑張ろうという気なるが、そこが不安だから、施設に早めに入りたいというのが、特に一人暮らしの高齢者には多いように見受けられる。施設が増えれば、ますます介護保険料が上がるので、そうしないためにも、在宅の生活支援がきちんとあるべきだと思う。介護保険の中で全てというのは、難しい話かもしれないが、ちょっとしたサポートがあれば、もっと長く在宅で元気に暮らせる人も多いのではないかと思う。今でも市で介護保険外の生活支援・生活援助の色々な取り組みがなされているのはわかるが、その辺にもっと重点を置いていただきたい。

委員：パブリックコメントも大事だが、実際に声にならない声というのを拾い上げて、本当に必要な人に必要なサービスを提供するという視点を崩してはいけないと思う。計画の実施にあたって、この委員会の参画している団体が、自分達のできることをやろうということから、始まるような気がする。そうすることが、北九州市の高齢者支援の一步だと思っている。改めて、我々も地道にやっていこうと思う。また、概要版でもって、色々なところで市民の方に説明していた

だきたいと思う。

委員：パブリックコメントを見て、認知症や介護のことをどこに相談したらいいのかという情報が、なかなか伝わっていないという感じを受けた。計画を遂行していくために、行政だけではなく、我々団体が地域において伝えていくことが、第一歩かと思うので、必要な人に必要な施策が実施されるように伝えていきたいと感じた。

委員：目標が2つできた。第三次高齢者支援計画の全173の事業が他の方に説明できるようになるということが1つ、もう1つは、歯科衛生士会では、要支援・要介護でない方々の機能がそれ以上落ちないように、お口の方でサポートするという教室を開いている。要支援・要介護にならない方々を増やすということを目指したいと思う。

委員：施設をたくさんつくっても、地域で支えるシステムがなければ追いつかない。そのシステムがないまま、人口が減っていくと、将来、日本はどうなるのかと個人的には心配している。商工会議所でもいろいろな高齢者に関する事業報告がされて、市民や経済界にも情報の発信があり、いい状況にはなっていると思う。それと、他局との連携や地域で支えるシステムづくりが、まだ弱いのではないかと思う。それと、地域で暮らしている方々は高齢者もいれば、障害者もいる、子育てをしているお母さん方もいるが、対象ごとではなく、ひとつのものとして発信していくような仕組みができればもっとよいと思う。

委員長：第1回の委員会でも、この計画をつくるにあたって第一は、市民目線という点を強調した。ただ、市民の意見を全て受け入れることはできない。そのためにこの委員会で専門団体、専門職の意見を加えて調整してきた。この計画はスタートラインで、私達委員は、平成26年度の次の計画が始まる時に、この計画がどれくらい到達しているかを見届ける責任があると思う。第二次の計画と比べると、この計画の173項目の事業の中には、いくつかの部署が連携しながら、高齢者の生活・暮らしを支えていく事業が、多くあったのではと感じる。また、前回の委員意見で、173項目の事業の中での重点項目は、いくつあるのか。それを整理し、市民にきちんと示していくべきという指摘もなされている。これから、計画をどう検証していくか、成果等をきちんと評価するシステムをつくらないと、ただ、計画をつくっただけでは、限られた財政の中ではやっていけないのではないかと思う。

総務部長：今回の計画策定にあたり、「生きがい・介護予防分科会」、「認知症対策・権利擁護分科会」、「地域包括支援分科会」、「介護保険分科会」4つの分科会を設置し、延べ17回に渡り検討を重ね、幅広い視点からご意見、ご提案をいただいた。市において、こうした議論をもとに、施策の方向性や基本的な施策をとりまとめ、更に、市民、関係団体の皆様との意見交換や、パブリックコメントを経て、第三次北九州市高齢者支援計画の最終案を策定することができた。今回の計画では、特に高齢者の生きがい・健康づくり、社会参加、認知症対策、家族支援、在宅生活を支えるサービスの充実に重点を置き、新規事業、それから、既存事業の充実・強化に取り組み、高齢社会対策の更なる推進を図ることとしている。今後とも委員の皆様のご尽力をお願いしたい。

委員長：本日の委員会を閉会とする。